

## 中村鷹之資

観ていただいた方の  
人生の一部になれるように

現在、大学3年生の中村鷹之資さんは、経済学部で経営について学んでいる。歌舞伎俳優の道を歩むことを選んでいた鷹之資さんは、なぜ経営を学ぼうと考えたのだろうか？

「大学へ進学する際に、歌舞伎とは全く違う世界を見たいと思って選びました。経営学科は人材マネージメントや商品開発など、幅広い分野を扱っていることで、社会のしくみや、いろいろなことを学べて面白いです。歌舞伎役者もマーケティング的に自分をどのように売り出していくかという商売でもあるので、大学に入ったことでそうした視野を広げることもなつて本当によかったです」

有意義な学生生活も現在はオンライン授業が多い。大きな変化をもたらしたコロナ禍に入ってからの日々については、次のように語った。  
「11歳の時に父が亡くなってからは考える間もなくいろんなことに追われてきたのですが、20歳を過ぎて去年くらいからようやく落ち着いて、自分を見つめ直す時間を持てるようになりました。これまでで一番記憶に残っている舞台は『第九回矢車会』（2009年、歌舞伎座）です。昼

の部が『勸進帳』で夜の部が『連獅子』だったのですが、『勸進帳』では父が弁慶で、(中村)吉右衛門のおじさまが富樫、僕が義経で、『連獅子』は父と勤めさせていただきました。『連獅子』宗論に十八世中村勘三郎のおじさまに出演していただいたのははじめ『勸進帳』四天王などにも、錚々たる先輩方が出演してくださいました。また当時の皇太子殿下にご臨席



なかむら たかのすけ | 1999年、東京生まれ。人間国宝の五世中村富十郎(1929~2011年)の長男。屋号・天王寺屋。2001年、歌舞伎座『石橋』文殊菩薩で中村大を名乗り初舞台。05年、歌舞伎座『鞍馬山誉鷹』牛若丸で初代中村鷹之資を披露。13年より自身の勉強会「翔之會」を主宰。現在、学習院大学在学中。https://www.tennoujiya.com

「父の若い頃からの舞台をご覧になっていた方がいらして、その方がずっと書き留めてきた観劇の感想を1冊の本にまとめて出版なさったんです(山田涼子『珠玉天王寺屋―五世中村富十郎』)。拝読させていただくと、しっかりと観劇日が記されていて、若かりし父が演じたお役のことだったり、相手役との演技のことだったり、父をずっと追っかけてきて

いただき、父も、生涯で一番心に残る舞台と語っておりました。当時、父が目を輝かせて手を綺麗に堂々と演ればいいんだよ」と言ってくれたことを覚えています」

幼かったにもかかわらず、しっかりと父・五世中村富十郎の言葉を覚えていた鷹之資さん。父亡き後も、父を支えてきたお客様を通して知ること多いという。

くださった大切な方だと思いました。父が演じた舞台がその方の人生の一部としてしっかりと刻まれていたんです。それが歌舞伎俳優にとって最も役者冥利に尽きることだと思えますし、そうしたお客様に僕たちは育てていただいているんですね。僕も、僕の成長を一緒に見守っていただい、その方の人生の一部になれるような役者になりたいです」



右：2018年9月、国立能楽堂「第五回 翔之會」清元『吉野山』忠信の鷹之資さんと静の渡邊愛子さんによる兄妹共演(写真・吉住佳都子)。中と左：2009年5月、歌舞伎座での自主公演「五代目中村富十郎傘寿記念 第九回矢車会」夜の部、富十郎・鷹之資親子の『連獅子』。この時、鷹之資さんは10歳、『勸進帳』と『連獅子』どちらも初役に勤める。当時、「オウ(父・富十郎のこと)と僕と一緒に出る初めての『矢車会』、とても大切な舞台なので「頑張るぞ」という気持ちでいっぱいです」(歌舞伎公式総合サイト「歌舞伎美人」より)と初々しいコメントを残している(写真2点とも・渡辺文雄/舞台製作 松竹株式会社)。